



※参考値出所：日本病院会 2015 年度 QI プロジェクト結果報告 N015 退院後 6 週間以内の救急医療入院率

No15-b 退院後 6 週間以内の救急入院（救急医療入院）患者数 DPC 対象 303 施設平均値

## ■ 経年で数値は減少しつつも取り組み課題はあり

本指標は 1 人の患者さんが荻窪病院を退院後、予定されていない状況（再診、定期的な検査などの予定が退院時に設定されていない状況）で再度 6 週間以内に入院した比率を示す指標で、年間の退院患者数を DPC（包括医療費支払い制度）で算出する「予定外の入院」に該当する患者数で除した数値で算出しております。

入院患者数が増加傾向にある中で荻窪病院の数値は 2013 年度から 2015 年度まで経年的に件数が減少しており多職種での連携や術中・術後の診療・看護の質が向上している事が考えられます。しかしながら、日本病院会が発表した平均値よりも再入院率は高く、初回入院時の治療不十分の可能性や、早期退院を推進する中で回復不十分でないかどうかの内部体制や、外部的な要因を探りながら数値の減少に取り組む必要があります。